

第4回 VMAT 治療計画実習講習会参加報告

京都大学大学院医学研究科 放射線腫瘍学・画像応用治療学

石原 佳知

この度、日本医学物理士会の講習会参加補助金の援助を受けて第4回 VMAT 治療計画実習講習会に参加致しました。当方は現在の勤務先で通常業務の一つとして VMAT の治療計画を担当しており、最適化、線量計算の過程で他施設の先生方がどのように工夫して治療計画を行っているのか知っておきたいというのが大きな参加動機でした。

講習会は初日の午前中にファントム症例、午後から二日目にかけて前立腺がん症例、頭頸部症例の実習、プラス講義を適時はさむという OJT 形式のものでした。最初に驚いたのは会場設備が非常に整っていた点でした。治療計画装置にデュアルディスプレイ、広い机と度肝を抜かれました。参加前は参加者に対する講師の人数が少ないように感じていましたが、デュアルディスプレイの片面に講師の方々の治療計画画面が参照できるようになっており、治療計画装置を初めて触る、また、最適化を初めて行う参加者に対して非常にわかりやすく実習が可能となっております。

VMAT の治療計画は計算時間が長く待ち時間が生じるのですが、その間も講師の先生に指導頂く時間や、また、テキストが充実（内容だけでなく、印刷用紙も厚紙であり、ありがたかったです）していたためそれらを参照し学習することもでき、随所に短い期間で効率よく実習を行うための工夫が施されており、非常に参考になりました。治療計画装置の特性上、対応困難な課題や、現状明確な答えが存在しない課題に対してどのように対応しているか意見交換もでき有意義な講習会となりました。

また、初日に開催された情報交換会では他施設の先生方とも意見交換することができ、さらに、講師の先生方から治療計画だけではなく、自施設の状況や医学物理士会の講習会運営についても詳細な情報をご教授頂き大変参考になりました。

全体を通して、講義、実習内容だけではなく、テキストや実習設備にまで様々な工夫がなされており、講師の方々の奉仕の精神に感動致しました。また、援助をして頂きました医学物理士会の先生方にも深く感謝致します。今後の医学物理士会の講習会の更なる発展を祈念しております。